

平成26年度 第2回愛知県生涯学習審議会社会教育分科会会議録

1 開催期日

平成27年2月24日（火） 15時45分から16時45分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

3 出席した委員の氏名 8名

足立 誠、安藤正紀、加来正晴、志村貴子、鈴木照美、西山妙子、
松田武雄（分科会長）、山内晴雄

4 欠席した委員の氏名 1名

恩田やす恵

5 会議に付した事項

○ 議事

- (1) 「市町村における社会教育委員制度活用の課題と在り方について」のとりま
とめの概要について
- (2) 平成27年度社会教育関係団体補助金(案)について

○ 報告

平成27年度社会教育関係事業(案)について

○ その他

6 会議の経過

○ 会議録署名人の指名

分科会長から志村委員と山内委員を署名人に指名

○ 「市町村における社会教育委員制度活用の課題と在り方について」のとりま とめの概要について

事務局から資料により説明

これに対する各委員からの意見は別紙のとおり

○ 平成27年度社会教育関係団体補助金(案)について

事務局から資料により説明

承認

○ 平成27年度社会教育関係事業(案)について

事務局から資料により説明

○ その他

特になし

1 「市町村における社会教育委員制度活用の課題と在り方について」のとりまとめの概要について

○ 自分の地域の社会教育委員はどなたがなられているか調べようと思ったが、わからなかった。名前もわからなくて、どう意見をお願いしたらいいかわからない状況がある。お引き受けになっている社会教育委員自身も自分たちの活動を周知することもできないのだろうと思った。自分が所属している団体に周知することはできるが、その他の人たちにどうやって周知しているのかと聞いていたら、アンケートを見て納得した。

○ 社会教育委員の名前はホームページに掲載されているのか。

→ 国の18年度の全国調査によると、ホームページで公開している市町村は5.8%となっていたが、今回の調査によると40%がホームページで会議録を公開しているとし、増加している。公開にあたっては、社会教育委員の名前も掲載されているホームページもある。

○ 文化の伝承、高齢者、青少年健全育成の問題など、これらを社会全体で考えて、地域づくりをしていかなければならない。そこで、社会教育委員が実際の生活の場で感じてきたことなどをまとめて、こうするべきではないのかと提言するのが社会教育委員の役割である。そして、それを実践していくのが社会教育事業である。これは多くのまちでは、公民館で主事さんたちが企画し、地元の方たちと話し合っ、どのように地域の生涯学習事業を進めていったらいいのか、どのように学校との連携、行政との連携をやったらいいのか、どんな講師さんがいいのかなど考えている。

一方、社会教育委員の会議が何回開催されているかというところが多くは2回である。議題は、生涯学習課が中心となって行っている事業の承認で終わってしまっている。実際にボランティア活動をしたり、NPO活動をしたりしている人が委員として出てきているから、ものすごく意識が高い。このような委員が意見をまとめて提言する場が社会教育委員会であると言っている。しかし、その予算が全然ついていない。それから、社会教育委員は、昔はひよっとしたら名誉職だったかもしれない。今でも名誉職と言われるけれども、実態は違う。私どもは年間7~8回は自主的に生涯学習推進会議をやっている。様々な問題に対しテーマをもって分科会をもち、そこで実態調査をし、市がどうあるべきかをまとめて提言書をつくる。多岐におよんでいるので、行政の窓口は様々である。地域づくりのためには、連携してやらなければならないのではないかとということで、私たちは横断的にやれるといいと提言するが、市は反映する努力はしてくれるが、なかなか難しいと壁にぶつかっている。

ということで、どこの社会教育委員さんも実際に活動している方が多い。そういう活動している方々を社会教育委員として引っ張ってきている。充て職という場合もあるが、それは現場の意見を聴くということである。長くやっている方もいるが、そのまちを活性化したいと思ってやっている。過疎の地域などでは、社会教育委員さんが地域づくりの中心になっている。高齢者の中で何か起業しようではないかということで成功している地域もある。社会教育委員さんと地域の方々が協力して地域づくりをしている例がいっぱい報告されている。来年度、愛知県で社会教育委員の東海北陸大会が開催される。他県の様子を聴いて勉強しなければと考えている。

今回の調査でいろいろ出てきているが、社会教育委員が考えていることや提言を活かしていただける場がなかなかないから、自分でやれることをやろうというレベルになっていると感じる。社会教育委員の会議も年2回しか持たれていないし、予算がついていない。活躍しようがないというのが現状である。

- 稲沢市では社会教育委員の会議が年7回ということか。
- 行政が開催するものとは別に、自主的な手弁当の会や分科会もあわせて年17～18回実施している。今年から市もこれではいけないということで、市の事務局の方が資料を整理してまとめている。
- 稲沢市では非常に社会教育委員の会議が活性化しているという紹介をしていただいた。
稲沢市は活発にやられているということだが、行政はどう受け止めているのか。
- 社会教育委員に対する認知度は世間一般だけでなく行政もないといっているほどである。やっている社会教育委員は必死に使命感を感じてやっていることが多い。私たちが言っていることを行政に反映させるといふことだとか、地域の方々の意見を聴くということが皆さんに知られていないから、そういう場がなかなか設けられず、空回りしやすくなっている。担当課の方は一生懸命聴いてくださっているのだが。
- 調査結果を見ると全体としては社会教育委員としての活動は活発ではない。しかし、最後のご意見を見ると、何かをやりたいんだというような意欲を社会教育委員さんはお持ちになっている。
今後の進め方は、この調査結果に基づいて提言をまとめるということか。

→ 来年度、第1回会議に概要をまとめ、第2回会議で提言案をお示しし、ご

指導をいただいて、ホームページや冊子にまとめてまいりたい。

○ 県の社会教育委員会議で提言するのだから、市町村の社会教育委員さんだとか事務局の方にこういう提言をつくりましたという報告会などをされるのか。

→ 県生涯学習課は愛知県社会教育委員連絡協議会の事務局を担っており、社会教育委員さんに対する研修の場などにおいて会長さんのご指導をいただきながら有効に活用してまいりたい。

○ せっかく調査を行って提言を出すのだから有効に活用していただきたい。

2 平成27年度社会教育関係団体補助金(案)について

意見なし。

承認